

知覚動考

寒河江市立南部小学校
校長室だより
校長 白田 敏幸

「誰一人取り残さない 子供が育つ学校づくり」

叱る・叱らない論争

以前、ある保護者から・・・

「校長先生、子供ば、ごしゃいだらいいんだが、ごしゃがね方がいいんだが、どっちなんだず。」

と聞かれたので、以下のように答えた。

「ごしゃぐが、ごしゃがないかなではなくて、『どうしたら愛情が伝わるか。どうしたら、その子の成長につながるか』を考えっといいんね。」

大切なのは・・・

①子供の「行く先を示すこと」

②大人と子供の関係性「この人(大人)は、自分のことを認めてくれている」

※これがないと、叱ろうが誉めようが、大人の言葉は届かない!

「表情」が子供に見えること非常に大事

メラビアンの法則 【視覚情報55% 聴覚情報38% 言語情報7%】

マスクをして「目しか見えない」恐怖(怒っているのか笑っているのかが分からない)

腹の言葉で語りかけること

子供に示す**めあて**や**目標**に**ワクワク感**があれば、子供たちは、勝手に進んでいく。

【サンテクジュペリ】

「本当に船をつくりたいなら、人を集めてやり方を指示するのではなく、とにかく、生みの壮大さや無限の夢を語れ。そうすれば人は勝手に船を作り出す。」

まずは大人が**ワクワク**すること。**ワクワク**している人の周りの人は、**ワクワク**する。**にこにこ**している人の周りには笑顔があふれる。**元気**な人の周りには、**元気**になる。

⇒**教育は人なり**

大人としての「おもい」を、どれだけ**自分の言葉**で語れるか、が問われている。

「学力ってなに?」「学校って何のためにあるの?」「何のために勉強するの?」

子供がワクワクするような話ができますか?